

## 需要予測の前提条件について

	平成 17 年度、18 年度調査	今年度調査
1. 予測モデル	・近畿地方交通審議会答申第 8 号のモデルを前提とする。	・同左
2. 予測対象ゾーン	・既存駅との取り合いも考慮し、箕面市内のゾーンは細分化を行う。	・同左
3. 予測対象年次	・2020 年（平成 32 年）	・同左
4. 人口フレーム	・平成 12 年国勢調査ベース。	・最新の平成 17 年国勢調査ベースに置き換える。 ・開発人口についても、人口定着を考慮し見直しを行う。
5. 将来鉄道ネットワーク	・事業中もしくは事業化が決定している路線を加えた。	・事業中もしくは事業化が決定している路線を加えるケース及びさらに計画中路線である西梅田・十三連絡線(仮称)、新大阪連絡線を加えるケースの 2 ケースを想定する（延伸による御堂筋線の最混雑区間の混雑緩和を考慮）。
6. 端末バス路線網の設定	・延伸後の駅端末のバス路線網については、現在の路線網と新駅の位置を考慮し、新駅へのアクセスにより時間短縮が図れる路線については、箕面船場駅もしくは新箕面駅へのアクセスへ再編されるものと仮定した	・別途調査が行われている、バス路線網の再編に関する考え方に従って、現状のバス路線網の再編をイメージし、その結果を端末バスサービスとして需要予測に反映させる。
7. 端末バスサービスの予測への反映	・所要時間及び料金を鉄道端末手段のインプットデータとして与えている。	・今年度は端末バスサービスをより明確に予測モデルに反映させるために、過去に大阪モノレールが調査を実施し作成を行った、駅端末バスの手段選択モデルのパラメータを元に、所要時間、料金だけでなく、運行頻度も考慮して端末手段のデータを与える。 ・また、モデルが目的別に作成されていることから、端末データも目的別に作成する。

■予測対象ゾーン（箕面市内のゾーンの細分化）

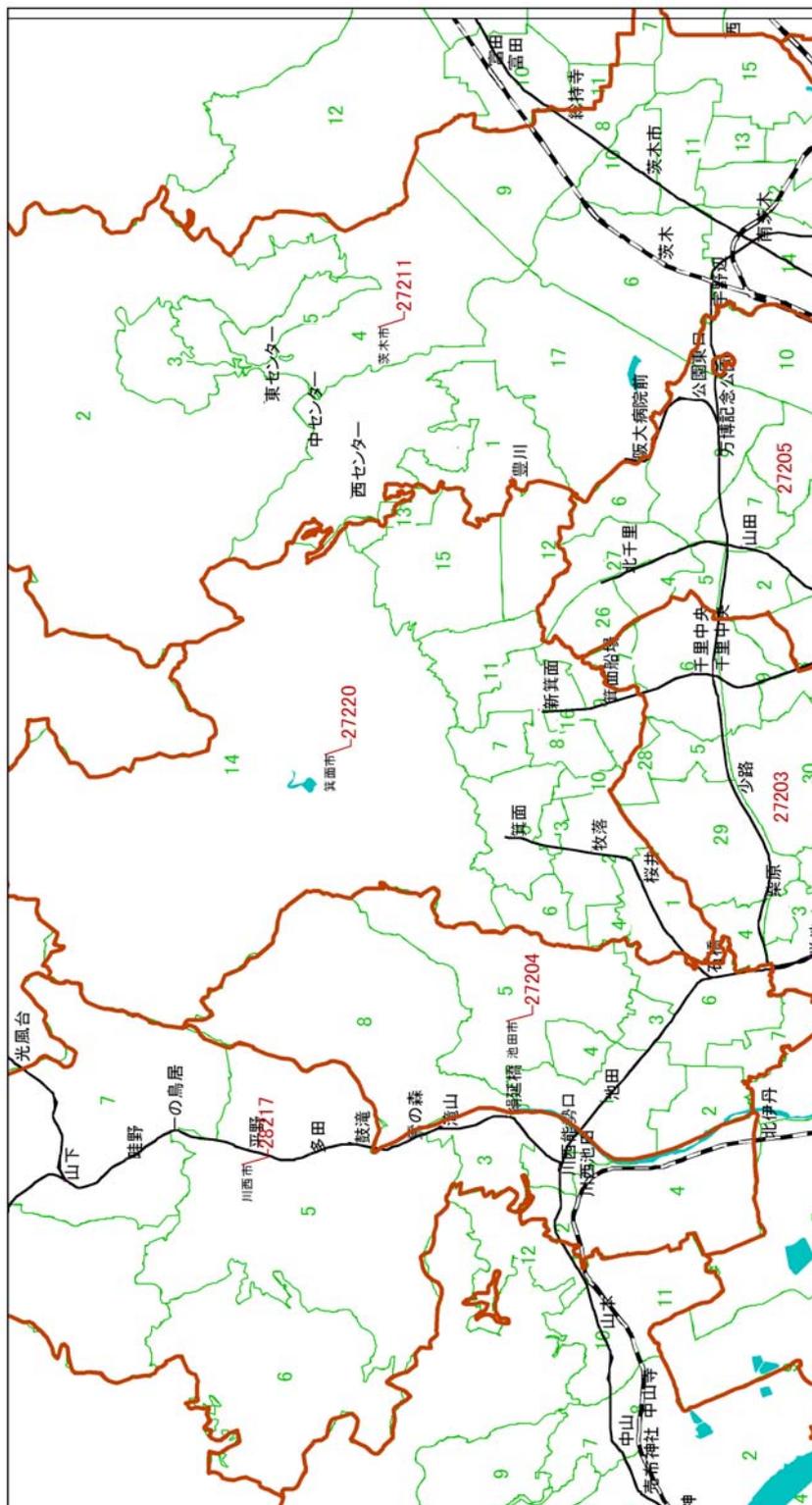
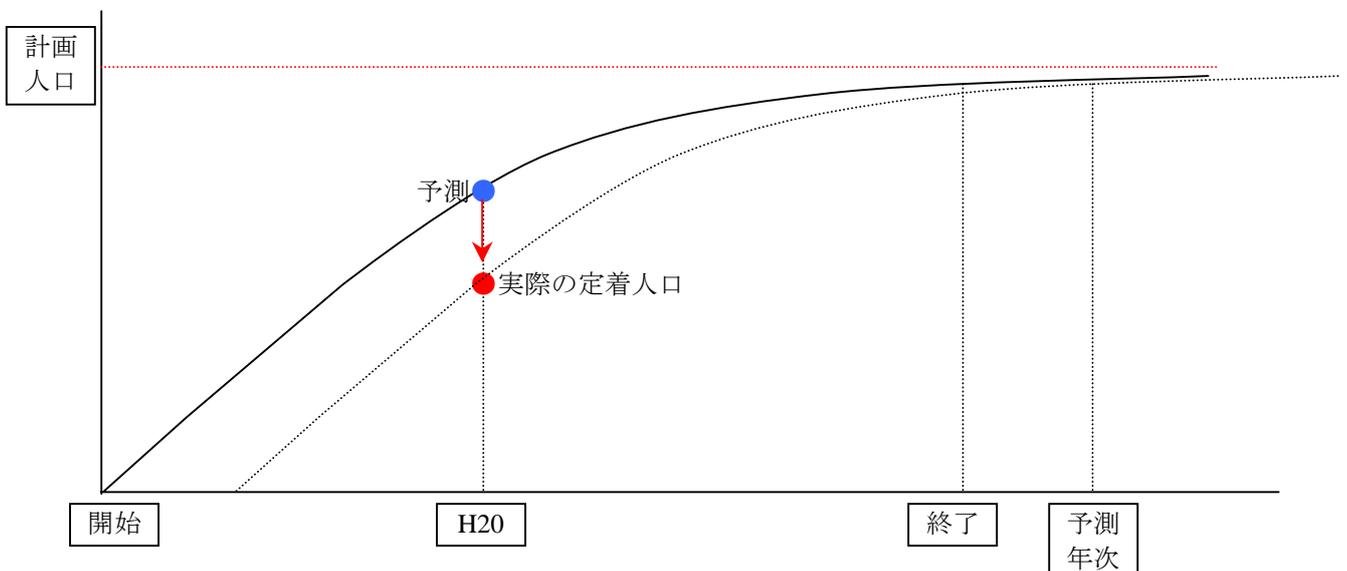


図 箕面市内のゾーンの細分化

■開発人口の見直し

			箕面森町	彩都	小野原西	萱野中央
現行	事業 期間	開始	1996年	1994年	2000年	1995年
		完了	2015年	2007年	2010年	2007年
	計画 人口	常住	9,600人	50,000人 箕面市：11,000人 茨木市：39,000人	3,410人	2,300人
		従業	—	24,000人	—	—
	2020年		9,550人	常住：47,967人 従業：23,024人	3,406人	2,300人
見直し	事業 期間	開始	1996年	1994年	2000年	1995年
		完了	2015年	2007年	2010年	2007年
	計画人口	9,600人	50,000人 箕面市：11,000人 茨木市：39,000人	3,400人	2,300人	
	定着人口	323人(H20.9)	6,181人(H20.9) 箕面市：295人(H20.9) 茨木市：5,886人(H20.9)	127人(H20.9)	確認中	
	定着率	3.4%	12.4%	3.7%	—	



■鉄道ネットワーク

○過年度検討において考慮した鉄道ネットワーク（今年度の基本ケースも同じ）

地域	路線名	整備区間
大阪周辺	西大阪延伸線	西九条～難波
	中之島新線	天満橋～玉江橋
	大阪外環状線	新大阪～久宝寺
	大阪市交8号線	井高野～今里～湯里六丁目
	北港テクノポート線	コスモスクエア～夢洲～舞洲～新桜島
	国文都市モノレール	阪大病院前～東センター
京都周辺	京都市交東西線	二条～天神川

○今回、追加ケースとして考慮する鉄道ネットワーク

地域	路線名	整備区間
大阪周辺	西梅田・十三連絡線(仮称)	西梅田～十三
	新大阪連絡線	十三～新大阪